

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承		
(施策の小項目)	—		
主な取組	しまくとぅば普及継承事業	実施計画 記載頁	48
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばを次世代へ継承するため、効果的な普及推進の方策等について、有識者による議論・検討を実施し、研究者や活動団体等関係者のネットワークの構築を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について有識者等による議論・検討を実施					→	県
	研究者や活動団体等関係者のネットワークを構築						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	28,851	24,075	しまくとぅば県民大会の開催し、780人が参加した。(平成27年9月19日) しまくとぅば語やびら大会を開催し、650人が参加した。(平成27年9月19日)	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
活動団体等関係者のネットワークの構築			—	2件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	しまくとぅばを次世代へ継承するため、9月に文化庁、沖縄県、琉球大学と共同主催の、「危機的な状況にある言語・方言サミット(沖縄大会)」を開催、3月には第8回琉球継承言語シンポジウムにパネラーとして参加し、各研究者や文化団体と議論をすることで、ネットワークの構築が図られたため順調である。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	54,185	普及推進のために、「第4回しまくとぅば県民大会(9月予定)」や「しまくとぅば人材養成講座(10カ所)」を開催し、「しまくとぅば読本」(3万5千部)を増刷するとともに、民間団体への支援も行う。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①有識者からなる普及推進専門部会の意見を踏襲し、平成25年度に策定した「しまくとぅば普及推進計画」(平成25年度～平成34年度)に基づき、運動を実施する。</p> <p>②普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、3年毎に実施する。</p> <p>③県民運動の取組を広く周知するため、路線バス内でしまくとぅばアナウンス等を実施する。</p> <p>④今年度は、市町村文化協会や話者育成を行っている民間団体等を集め、情報交換や連携を促す機会を設ける。</p>	<p>①県民大会、小中学校への「しまくとぅば読本の配付」等を行い、新たに人材養成講座を行うなど、しまくとぅばの普及推進を図った。</p> <p>②中期行動計画を策定するための調査を行い、平成28年度は、前期行動計画の事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施する予定である。</p> <p>③県民運動の取組を広く周知するため、路線バス内でしまくとぅばアナウンス等を実施した。</p> <p>④「危機的な状況にある言語・方言サミット(沖縄大会)」を開催し、行政及び民間団体等と情報交換を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,982人 (23年度)	9,039人 (27年度)	16,500人 (28年度)	7,057人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>第3回「しまくとぅば」県民大会に780人、「しまくとぅば」語やひら大会に延べ650人が参加した。平成27年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は9,039人となり、年々増加している。</p> <p>10ヶ年の『「しまくとぅば」普及推進計画』に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用を働きかける他、市町村文化協会と連携し話者を活用した取組を推進するなど、全県的かつ横断的な県民運動を展開し、県民に「しまくとぅば」を効果的に普及することで、H28目標値の達成に向けて引き続き取り組んでいく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>○外部環境の変化</p> <p>・県民のしまくとぅばの使用能力は年々弱まっており、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度しまくとぅばの重要性を認識し、しまくとぅばを普及するため、どのような方法が効果的なのかを有識者からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、検討しなければならない。</p>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・しまくとぅば体験機会の創出による事業効果を検証するため、調査等を行う必要がある。</p> <p>・しまくとぅばの話者が少なくなっているが、しまくとぅばは各地域で異なるため、その多様性を尊重しつつ、各地域において、しまくとぅばの普及に携わる人材を養成する必要がある。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

- ・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施し、どのような方法が効果的なのか、普及推進専門部会の意見等も踏まえ検討していく。
- ・各地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、各地域でしまくとぅばの普及に携わる人材を養成する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)				
主な取組	しまくとぅば体験機会の創出	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばを次世代へ継承するため、「しまくとぅば県民大会」や「しまくとぅば語やびら大会」を開催することにより、しまくとぅばの普及推進を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		しまくとぅばに関するイベント等の開催 「しまくとぅば語やびら大会」(沖縄県文化協会主催)の開催 支援					→
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば 普及継承事 業	28,851	24,075	しまくとぅば県民大会の開催し、780人が参加した。(平成27年9月19日) しまくとぅば語やびら大会を開催し、650人が参加した。(平成27年9月19日)	一括交付 金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばに関するイベント等の開催			-	年4回
しまくとぅば語やびら大会の開催 等			-	年1回(21回目)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	「しまくとぅば」県民運動の一環として、9月に「しまくとぅば県民大会」及び「語やびら大会」を開催し、しまくとぅばに関するシンポジウムを年間4回開催するなど、県民がしまくとぅばに触れる環境を創出したことにより順調である。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば 普及継承事 業	54,185	普及推進のために、「第4回しまくとぅば県民大会(9月予定)」や「しまくとぅば人材養成講座(10カ所)」を開催し、「しまくとぅば読本」(3万5千部)を増刷するとともに、民間団体への支援も行う。	一括交付 金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①各地域で「しまくとぅば講師育成講座」を行い、各地域の「しまくとぅば講師」を育成する。 ②普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、3年毎に実施する。	①県内10地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、322人が受講した。 ②前期計画の事業効果を検証するため、平成25年度調査から3年後の、平成28年度に、しまくとぅば県民意識調査を実施する。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,982人 (23年度)	9,039人 (27年度)	16,500人 (28年度)	7,057人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	第3回「しまくとぅば」県民大会に780人、「しまくとぅば」語やひら大会に延べ650人が参加した。平成27年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は9,039人となり、年々増加している。 10ヶ年の『「しまくとぅば」普及推進計画』に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用を働きかける他、市町村文化協会と連携し話者を活用した取組を推進するなど、全県的かつ横断的な県民運動を展開し、県民に「しまくとぅば」を効果的に普及することで、H28目標値の達成に向けて引き続き取り組んでいく。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民のしまくとぅばの使用能力は年々弱まっており、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度しまくとぅばの重要性を認識し、しまくとぅばを普及するため、どのような方法が効果的なのかを有識者等からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、検討しなければならない。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・しまくとぅば体験機会の創出による事業効果を検証するため、調査等を行う必要がある。 ・しまくとぅばの話者が少なくなっているが、しまくとぅばは各地域で異なるため、その多様性を尊重しつつ、各地域において、しまくとぅばの普及に携わる人材を養成する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施し、どのような方法が効果的なのか、普及推進専門部会の意見等も踏まえ検討していく。
- ・各地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、各地域でしまくとぅばの普及に携わる人材を養成する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)				
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件以上 助成件数	1件以上	1件以上	2件以上	2件以上		企業 NPO法人 等
	しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	148,485	139,131	しまくとぅばは、沖縄文化の基層であることから、歌三線や組踊等の伝統芸能に関する事業を支援することによりしまくとぅばの保存・普及・継承につなげた。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援			2件	3件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	しまくとぅばは、沖縄文化の基層であることから、歌三線等の担い手育成や組踊の普及に関する事業を支援することにより、しまくとぅばの保存・普及・継承に一定程度資することができたため、順調とした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	133,185	県内の団体等が行う文化資源を活用した取り組みや沖縄文化の継承者の育成など2件以上、支援する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①年度中に1回採択事業者等を集め情報交換や連携を促す機会を設ける。 ②応募から事業執行まで文化関係団体へ助言、指導をこまめに行う。事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導し、事業者の掘り起こしを図る。	①4月に事業者説明会を開催し、事業者間の情報交換、連携を促す機会を設けた。 ②委託先である文化振興会において、プログラムオフィサー(専門員)を配置し、事業者への丁寧なハンズオン支援を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者数(累計)	1,982人(23年度)	9,039人(27年度)	16,500人	7,057人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	引き続き、伝統芸能に関する事業を支援することにより、成果指標の達成につなげる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能の保存・普及・継承に向けた取組を行う団体が持続的な活動ができるように、助言指導などハンズオン支援を行う必要がある。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募状況に地域差があり、北部や離島からの応募が少ない。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・応募から事業執行まできめ細やかな助言指導を行う。また、全県的に伝統芸能の公演等が活発に行われ、しまくとぅばの普及につながるよう、北部や離島等でも、事業説明会等を行う。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・応募から事業執行まで事業者へ丁寧に、事業の考え方、取組方法など助言指導を行い、事業者の掘り起こしを図る。また、北部や離島等でも、事業説明会等を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	②伝統行事の伝承・復元			
(施策の小項目)	—			
主な取組	地域文化継承支援事業	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	地域の伝統行事の伝承・復元を目指し、県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行い、本県の文化・地域振興に図るためなどに活用する。文化年鑑の作成については類似の冊子との差別化を調整しつつ、作成を検討する。また、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体 県文化協会
	伝統芸能等のデータベース情報収集・作成			3回以上 シンポジウム 開催	→		
	沖縄県文化年鑑の作成(各年度)			各地域でのシンポジウム等の開催		→	
				1回以上 公演回数	→		
	文化講演の実施			地域の伝統芸能を集めた公演			
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	7,737	7,248	県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についての文化講演として、シンポジウムを4回実施し、計470名の来場者があった。 また、普段は地域の祭事等でしか披露されていない、各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選 沖縄の伝統芸能」を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
シンポジウム開催件数			3回	4回

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果
順調	<p>離島を含む県内4地域(うるま市、久米島町、八重瀬町、名護市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化講演(シンポジウム)を行い、地域の伝統行事等の発信及び活性化を図った同シンポジウムでは、昨年度より1回多く開催したので単純比較はできないが、昨年より1.7倍近くの来場者数があった。</p> <p>また県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の再認識が図られた。以上の取組により、自らの地域の伝統文化等の情報共有や大切さを再発見することができたと考えられ、順調である。</p>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	9,723	各地域の伝統芸能を集め「特選 沖縄の伝統芸能」として国立劇場おきなわで公演を行うとともに、地域の文化・伝統芸能等に関するシンポジウムを3回開催する。また、今年度は地域文化の継承に関する文化講演及び意見交換会を開催する。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する。</p> <p>②シンポジウムの効果をさらに波及することと、検証するためのアンケート調査を実施する。アンケート項目は「関係者をどれだけまきこめたか」「どんな行動をとってもらいたいか」「どんな学習ができたか」という観点から、「どのようなインパクト(社会的影響)があったか」を検討できるように設定する。</p>	<p>①各地でのシンポジウムを4回開催し、各地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。</p> <p>②各シンポジウム毎にアンケート調査を行い、平均して約41%の回答を回収した。シンポジウムのアンケート結果では、約80%の満足度を得られた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
シンポジウムの参加者数等	165名 (24年度)	274名 (26年度)	470名 (27年度)	→	—
状況説明	平成27年度は4回シンポジウムを開催し、参加者も去年と比べて1.7倍である470名の参加者があった。昨年度の開催は3回であったため、参加者の人数について単純比較はできないが、より多くの地域の住民に考える機会を提供できた。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
- ・地域文化継承に関して、文化関連団体等の横の連携が取れていない。情報交換できるような場がなく、各地域の取組については情報が限られている。

○外部環境の変化

- ・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への価値が薄れている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。
- ・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化し、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。
- ・各市町村文化協会や文化関連団体等を集めた文化講演会及び意見交換会を開催し、ネットワークの強化を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	③文化財の適切な保存			
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還			
主な取組	沖縄遺産のブランド開発・発信事業	実施計画 記載頁	50	
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化財の適切な保存を目的に、県立博物館・美術館による旧石器人遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査を実施する。また、出土品・遺跡等の展示・公開をし、観光産業に利活用する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県立博物館・美術館による旧石器人遺跡の発掘調査					→	県
	出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用等						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	24,995	21,008	南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査において、新たに旧石器人骨1件を確認した。九州歴史資料館にて事業成果の出張展示を開催した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
県立博物館・美術館による旧石器(更新世)人類遺跡発掘調査の実施			-	1
県立博物館・美術館による旧石器(更新世)人類遺跡調査研究成果に関する展示会の実施			-	1
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	平成24年度には1万4千年前の人骨と石器、平成25年度には2万年前の人骨と貝器、平成26年度には9千年前以前の1体分の人骨を検出した。これに続き平成27年度も、南城市サキタリ洞遺跡において旧石器時代の人骨を検出し、発掘調査も順調に進んでいる。また平成27年度は、これまでの成果について九州歴史資料館で出張展示を開催、2,700名(29日間)の入場者があり、県外での発信活動も順調に行った。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	30,529	出土品等の調査研究を継続するとともに、沖縄県立博物館・美術館で出土品等の展示公開(特別展)を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度 of 取組改善案	反映状況
①より充実した調査を実施し、正確な情報発信を行うため、発掘調査を本年度まで延長して実施する。 ②事業成果をインターネット上でも普及するため、平成26年度において作成した情報発信用のコンテンツを活用し、27年度よりそれを活用して、インターネット上で情報を公開する予定である。 ③本年度は調査成果に関する県外での移動展を予定しており、移動展の内容および、これに関連する刊行物等を充実させることにより、さらなる情報発信を図る。	①発掘調査を平成27年度まで延長して実施した。 ②事業成果を普及する情報コンテンツをインターネット上で公開した。 ③平成28年1月27日から2月28日の間、九州歴史資料館(福岡県)において「沖縄の旧石器人と人類の起源」を開催した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
遺跡調査による人骨の発見件数	1 (25年)	1 (26年)	1 (27年)	→	—
状況説明	平成24年度からH27年度の発掘調査で人骨を含めて4件の人骨(更新世=旧石器時代のもの3件、および9千年前以前のもの1件)を発見した。 これら成果を適切に保存、研究調査、公開しており、貴重な文化財を保護し、後世に引き継いで行く取組を行うことができた。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの発掘調査によって、想定を上回る重要な発見があったため、事業成果の公表までに必要な調査研究に時間を要すること。 出土した人骨の復元や分析、出土した地層について、出土した地層についての分析等、より詳細な調査が必要である。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の調査成果については、平成25年度に企画展を開催したが、その後の調査成果に関する情報発信は新聞報道や遺跡見学会等に限られており、引き続き展示による情報発信が必要である。 平成26年度に発見された9千年前以前の人骨についての現地見学会には、2日間で869名の参加者があり、本事業着手(平成24年度)以降、県内2紙での本事業の成果に関する紙面掲載は50回以上にのぼることから、本事業に関する県民の関心の高さがうかがえる。 これまで調査成果に関する展示会は県内で1回のみの実施であることから、より規模を拡充した展示公開を行う必要がある。
--

(2) 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

- ・事業成果の迅速かつ正確な情報発信が必要であり、他の機関に分析協力を行う等、調査研究体制を強化することにより、発見から公表までの時間短縮、公表内容の充実を図る必要がある。
- ・貴重な文化財（新たに発掘されたものを含む）等を適切に保護し、後世に引き継いでいくため、県民等がその価値を認知できる環境を整えることが重要であり、県内外に向けた発信を引き続き行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・新たに発掘された文化財については、その価値を認知させるため、より充実した調査を実施し、専門的知識に基づいた正確な情報発信を県内外に行う。
- ・調査成果に関して大規模な特別展を開催し、まとまった形での情報発信を行う。また、特別展に係る図録やパンフレット等の充実をはかり、効果的な情報発信をはかる。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	③文化財の適切な保存			
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還			
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業	実施計画 記載頁	50	
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	戦災等により失われた8分野の工芸品制作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				資料調 査・設計	王国文化 遺産の再 興による複 製品制作	→	県
担当部課	文化スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	41,529	39,993	8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、陶芸、染織、金工、三線)の監修者会議を24回(各分野3回)開催し、模造復元資料の候補作をリストアップした。また、復元品の国外発信に係る現地調査を実施し、復元制作から展示までを実施設計書としてまとめた。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
監修者会議の開催回数			-	24
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	平成27年度には、8分野の監修者会議を各3回延べ24回を開催した。模造復元を行うにあたり、蛍光X線分析やCTスキャン分析により木地構造や顔料分析等を行い、制作仕様を確認した。また、より効果的な復元資料の情報発信方法を調査するため、国外調査をドイツとオランダ等で行った。これらを踏まえ模造復元・発信のための実施設計を行い、文化財を後世へ引き継いでいく取組みを順調に実施した。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	152,695	分野毎の監修者会議を開催し、仕様の詳細についての専門家の意見を踏まえながら、実施設計に基づき8分野の模造復元の制作業務を開始する。また、展示発信業務の会場調整(米国)を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度 of 取組改善案	反映状況
-	① 当事業の実施にあたり、多方面にわたる工芸品復元の制作管理体制の強化、記録保存管理、効果的な発信が必要である。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	沖縄の貴重な文化財を後世に引き継いでいくことを目的に、戦災等により失われた8分野の工芸品制作の手わざを復元する。より高度な復元を行うため、平成27年度には、8分野の監修者会議を各3回延べ24回を開催した。また、復元資料の蛍光X線分析やCTスキャン分析により木地構造や顔料分析等を行い、制作仕様を確認した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・王国時代の手わざを示す資料について科学分析を行い新たな知見が得られた。それらを反映するための制作に要する期間について専門委員から意見があり、現計画を検証する必要がある。 ・調査研究に基づいた資料の集積を記録保存し、各分野の模造復元に係る基本情報と制作工程を記録保存し、後世のための基礎資料とする必要がある。 ・復元した資料を国内外への効果的な発信を行うことにより、琉球王国文化をブランド化し、文化観光拠点として沖縄をアピールする必要がある。
<p>○外部環境の変化</p>

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・制作作品が8分野にわたりかつ専門性が求められるため、監修者と制作者の情報共有等の連携を強化する等、管理体制に万全を期す必要がある。
- ・文化財を後世を残すための効果的な記録方法について検討を行う。
- ・琉球王国文化の効果的なプロモーションの手法について工夫が必要である。

4 取組の改善案(Action)

- ・制作作品が8分野にわたり工芸品制作のティーワジャ(手わざ)等、王国時代の至高の技を現代に再現させるため、専門性が求めら、個々の模造復元の制作管理体制の強化を図る。
- ・貴重な文化財を後世に残すため復元の作業工程を記録保存する。
- ・琉球王国文化遺産の成果をより効果的に発信する方法を調査する。